

学校経営ビジョン	「目標に向かって主体的に行動する人間性豊かな生徒の育成」	目標に向かって自分自身を律することができ（自律）、思いやりや感謝の気持ちをもって（感謝）、将来社会に貢献する（貢献）生徒の育成を図る
----------	------------------------------	--

評価項目	重点目標	取組指標	具体的数値目標	自己評価			関係者評価	学校関係者の評価のコメント
				指標	総合			
知育	主体的な学びによる徹底した学力の向上	○ キャリア教育の視点を生かした教育活動を展開し、具体的な夢や目標をもたせる。	○ タブレットを活用した研究授業を全員1回以上 ○ 対外テストにおいて各教科地区平均到達 ○ 英検3級合格10名以上 漢検3級合格10名以上 数検検3級合格5名以上	4	3.8	学校ではキャリア教育を推進し、8割以上の生徒が将来を考えるようになった。9割以上の保護者が家庭で将来について話しており、今後とも学校と家庭が連携し、より充実した教育を目指す。	3.8	キャリア教育は、社会適応力を育み、自己の力を発揮して社会貢献する意識を高める重要な取り組みであり、家庭と学校の連携強化にもつながるため、今後も充実させてほしい。
		○ 小中一貫性のある学習指導、ICTの活用を展開するために、小学校と連携した授業改善を推進する。		3		学校は小中一貫した学習指導とICT機器の活用を進め、全職員がICT機器を活用した研究授業を実施した。また、9割の生徒がタブレットPCを使い授業に取り組んでおり、保護者もその活用を評価している。今後はさらに工夫し、主体的で対話的な学びを深めていく。		ICT機器の活用は、生徒の学びや職業観の広がりに大きく貢献している。今後も健康管理に配慮しながら、授業改善や更なる活用促進に取り組んでほしい。
		○ 「個に応じた指導」を充実させることで、「できる・分かる」実感をもたせる。		4		学校は「個に応じた指導」を進め、9割以上の生徒が授業が分かりやすいと評価、8割の保護者も指導を高く評価している。今後も一人一人の学びを支え、深い理解と学びの喜びを育む指導を続けていく。		多くの生徒が授業をわかりやすいと評価しており、先生方の努力が伺える。今後も個々の特性に応じた指導を継続し、遅れがちな生徒への対応にも工夫してほしい。
		○ 各検定試験の受検を推進し、英検及び漢検は3級合格10名以上、数検は3級合格5名以上を目指す。		4		各種検定への取組について、英検3級以上7名、漢検3級以上8名、数検3級以上3名と目標値には届かなかったが、多くの生徒が上位級資格取得を目指し、挑戦した。		各種検定の合格者が多いことは素晴らしいし、挑戦を継続できる指導が評価される。今後も生徒の実力に応じた挑戦を促し、保護者との認識の共有にも努めてほしい。
徳育	豊かな人間性・主体的に生きる力の育成	○ 校内、校外を問わず、自発的で元気なあいさつを目指す。	○ いじめの解消100% ○ 不登校生徒0 ○ 道徳科授業実施率100%	4	4.0	学校では元気なあいさつを自発的にできる態度を育て、約9割の生徒と保護者がその成果を評価している。今後も積極的なあいさつの定着と、社会性やコミュニケーション能力の育成に取り組む。	4.0	朝のあいさつが素晴らしく、元気なあいさつは気持ちよい。今後もキャリア教育の一環として、あいさつの定着とコミュニケーション能力の向上を期待したい。
		○ 道徳教育や人権教育の充実に努め、豊かな人間性を育むことで、「いじめゼロ」「不登校ゼロを目指す。」		4		高い人権意識と道徳的実践力の向上を目指し、道徳科の授業を計画的に実施するなど、様々な取組を通して、いじめの解消100%を達成している。不登校解消は達成できなかったが、保護者、関係機関と連携を密にしながら組織的に対応している。		いじめ解消100%は素晴らしく、学習支援などの連携も進んでいる。不登校解消に向け、受け入れ体制の整備や保護者との協力を強化し引き続き伝えてほしい。
		○ 一人一人に寄り添う支援や教育相談の充実に努め、自己決定させる場面を意図的に設けることで自尊感情を高める。		4		ユニバーサルデザインに基づく支援と相談活動の充実や心の教育に力を入れてきた。ほとんどの生徒と保護者が学校の方針を理解して家庭でも同じ取組をしている。		自己決定力を伸ばす心の教育は、思いやりの心が育まれ、いじめ解消にもつながっている。家庭との連携を大切にし、今後も継続的な取り組みを進めてほしい。
		○ 生徒への支援を拡充し、長所を伸ばすことで前向きに取り組む、困難を乗り越えようとする態度を育てる。		4		学級活動やその他の教育活動や個別の指導、相談を通じて、主体的に行動する態度を育成してきた。多くの生徒は自ら考え行動し、学校生活に活かしており、保護者もこれらを十分に理解している。		生徒一人一人の長所を伸ばし、主体的に行動する姿勢が育まれり、社会人としても重要な力が養われている。今後も積極的な態度を育てる取組を継続してほしい。
		○ 自発性・主体性を促す発達支持的生徒指導を推進し、生徒一人一人に自己指導能力を身に付けさせる。		4		生徒の自発性と主体性を促し、自己指導能力を高める指導を行っている。保護者からは、子どもが目標をもち自律的に行動できている点について高く評価されている。		生徒一人一人の自己指導力を身につける活動に対して生徒、職員、保護者とも自分で目標を立てて行動することができていると評価できる。
体育	健康・安全教育、体力・競技力の向上	○ 家庭でのネット、ゲーム、スマホ等の使用時間について生徒・保護者への啓発を継続して行う。	○ 家庭でのネット等利用上のルールづくり100% ○ ネット上のトラブル0 ○ 平日、7時間以上の睡眠100% ○ Tスコア50%以上24項目を目指す。 ○ 毎時間の授業担任による目視で立腰100%	3	3.3	情報モラル育成に取り組むも自主的ルール設定が不十分で、家庭でも評価が低い。今後は学校と家庭が一層連携し、健全なデジタル利用習慣の支援が求められる。	3.1	情報モラルの重要性は現代的な課題であり、生徒、保護者、学校が連携して取り組む必要がある。啓発活動を通じて、家庭内でのルールづくりを進めてほしい。
		○ 8時間以上の睡眠時間の確保を図る。		3		本校では、睡眠の重要性やメディアコントロールについて啓発している。保護者の評価は目標値に達していないことから、今後も学校と家庭がより一層協力し、健康な生活習慣の確立を指導・支援する。		生徒の十分な睡眠時間確保と生活習慣の改善に向けて、学校と家庭が連携し、協力体制を強化することが求められます。
		○ 体力向上プランを基に体育的行事や部活動の指導の充実を図り、体力向上、競技力の向上を目指す。		4		体力テストの結果から、持久力や柔軟性、筋持久力において目標値を達成できなかった。Tスコア50以上の17項目を得意分野としてさらに伸ばしつつ、課題である持久力強化と柔軟性向上に取り組む。		体力テストの結果から、特に持久力や柔軟性に課題があると思われる。学校と家庭が連携して継続的な体力づくりを進めることが求められる。
		○ 授業開始・終了時の立腰指導を徹底し、日常生活の正しい姿勢づくりを図る。		3		8割の生徒が「立腰」を意識しているが、家庭での定着には課題が残る。家庭と連携した指導が必要である。		学校での立腰の指導が進んでいるが、家庭での定着が不足しており、学校と家庭の協力が重要である。
食育	健康な身体づくりのための「食」に対する意識高揚と実践力の向上	○ 残食ゼロを基本とした給食指導の充実及び朝食の重要性を啓発することで、朝食抜きゼロを目指す。	○ 給食残菜0 ○ 朝食をとる生徒100% ○ 弁当の日における自己評価で目標達成80%)	4	4.0	給食指導を通じた食育を推進し、生徒は、残菜0を意識し取り組んでいる。また、8割以上の保護者が偏食改善を実感している。	3.9	残食ゼロや偏食改善、マナー向上の成果は素晴らしく、食育指導の効果が表れている。
		○ 「弁当の日」の発達段階に応じた具体的な到達目標の設定と家庭への啓発により、確実な実践(年2回)を目指す。		4		一部未摂取者がおり目標には達していないが、朝食の重要性についての啓発など組織的な取組を継続している。生徒の8割、保護者の9割以上が朝食をしっかりと摂っていると回答している。		朝食の重要性を理解させる指導や家庭との連携がさらに必要。今後も食育指導や啓発活動を継続し、生徒の健康維持と生活改善を進めてほしい。
				4		「弁当の日」に目標を設定し啓発を進め、8割の生徒と保護者が意欲的な姿勢を示しており、食育への関心が高まっている。		「弁当の日」の取組を通じて食への関心が深まり家庭との連携も進んでいる。
その他	保護者や細野小学校、地域との連携の推進	○ 管理職や主任の打合せ強化と合同職員研修の充実と地域行事への積極的な参加を促す。	○ 学校便り毎月発行 ○ 学級通信の定期発行 ○ ホームページ更新35回	3	3.5	小学校との合同職員研修や地域行事への生徒参加促進など、地域連携の強化を図った。生徒、保護者ともに積極的に参加していると回答したが約7割にとどまった。	3.8	生徒の地域行事やボランティアへの参加等、地域への貢献が評価される。今後も「まち協」と連携し、学校と地域が連携した活動の継続を期待したい。
		○ 学校ホームページや安心メール、学年・学級通信などを活用した学校情報発信の推進		4		学校では、ホームページや安心メール、学年・学級通信などを活用した情報発信に積極的に取り組んでいる。約8割以上の生徒が情報を伝達し、9割以上の保護者が学校との情報共有を評価している。		学校の情報を回覧板等で地域に発信し、開かれた学校運営を進めている取組は素晴らしい。今後も地域との連携を深め、継続的な情報共有に努めてほしい。

次年度の方向性についての校長所見	次年度も今年度同様、生徒一人一人を大切に、安心して過ごすことができる学校づくりに取り組んでいく。知育・徳育・体育・食育への取り組みを今年度以上に充実させ、小学校や保護者及び地域との連携にも積極的に取り組んでいく。特に、子どもたちに自己決定能力を身に付けさせるための取り組みやメディアコントロールの力を育むための取組を強化していきたい。
------------------	---

